

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2012年6月1日

No23

会社：厳しい経営状況にあることを理解してほしい！
組合：黒字達成で期末手当を抑制することは断じて認められない！

～夏季手当第3回交渉報告～

中央本部は、本日10時より第3回夏季手当交渉を行ない、夏季手当に対する要求の根拠を明らかにしました。

【要求の根拠】

- ① 度重なる自然災害や輸送障害の中で安全輸送と収入確保に向けて努力している組合員に会社は形で報いるべきである。
- ② 13年連続バアゼロの中で、可処分所得も減少し、公共料金や健康保険の掛け金が上昇されることから、生活給である期末手当への期待感が高まっている。
- ③ 会社は第三者委員会のチェックのもと、黒字基調への転換が求められている。収入を生み出すのは職場で汗して働く組合員の頑張りにかかっている。会社は仕事に対する士気を高め、25年間厳しい経営状況を支えてきた組合員の努力に対して満額回答で応えるべきである。
- ④ JR他社の夏季手当は昨年より上回っている。貨物会社は2年連続の黒字を確保した。支払い能力は十分ある。以上4点を示し、この間の苦労と切実な想いに対し、誠意ある回答を示すよう突きつけました。

【会社の考え方】

- ① 本社として自然災害・輸送障害に対して社内議論やJR各社へ列車運行の要請を行ってきている。平成23年度は、1.5億円の黒字を達成した。震災や自然災害で異例作業が続いた中において黒字達成したことに対して社員には感謝している。しかし、当期純利益が赤字であり、前年度の成績と今の状況を見ながら判断していきたい。
- ② JR貨物発足から25年が経過し、収支構造も変化してきた。これまで状況を見ながら会社の存続に向けて取り組んできたことを理解してほしい。
- ③ JR他社について本州三社は経営基盤が確立されている。三島会社は震災の影響が少なかった。貨物会社は震災の影響が大きくその差が出ている。

これに対して中央本部は、①赤字の時はガマンしろ、黒字の時も収入未達でガマンしろでは到底納得できない。収入未達は経営陣の責任であり、それを期末手当に転嫁することは絶対に認められない。②自然災害を被ったのは貨物会社だけではない。他企業は死物狂いで経営を立て直している。経営陣は外的要素を理由にし、乗り切ろうとしている。③列車遅延が常態化する職場で要員が逼迫しており、新採の増を実施すべきである。④自然災害・輸送障害対策を講じるのは当たり前である。一向に改善されないまま、現在に至っている。次回交渉時に列車遅延の具体的な対策内容を書面で示すことを突き付け交渉を終了しました。

組合員のみなさん！会社は、私たちの切実な想いに対して、ひたすら「理解してほしい」との回答に終始しました。定時運行率が85%台にあり荷主からは「JR貨物の輸送品質は信用できない」とまで言われています。その危機感が経営陣に全く感じられません。私たちは職場で汗を流し、安全確保と安定輸送の確立に向け奮闘しています。その苦労を手当に還元させなければなりません。回答指定日まで2週間となりました。全職場から闘いをつくり出し、無責任な会社経営陣に突き付けようではありませんか。中央本部は更なる交渉の強化を行うことを明らかにし第3回交渉報告とします。

以上

次回、第4回夏季手当交渉は、6月7日です。